

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 10 月 27 日 (2005.10.27)

【公開番号】特開 2000-56456 (P2000-56456A)

【公開日】平成 12 年 2 月 25 日 (2000.2.25)

【出願番号】特願 平 10-222061

【国際特許分類第 7 版】

G 0 3 F 7/027

B 3 2 B 27/00

G 0 3 F 7/004

G 0 3 F 7/028

H 0 1 L 21/027

H 0 5 K 3/06

【F I】

G 0 3 F 7/027 5 0 2

B 3 2 B 27/00 A

G 0 3 F 7/004 5 1 2

G 0 3 F 7/028

H 0 5 K 3/06 J

H 0 1 L 21/30 5 0 2 R

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 8 月 3 日 (2005.8.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

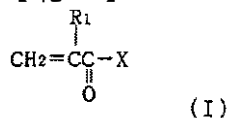
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

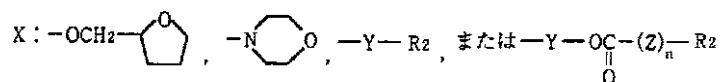
【請求項 1】

( a ) カルボキシル基含有量が酸当量で 1 0 0 ~ 6 0 0 、重量平均分子量が 2 万 ~ 5 0 万の熱可塑性重合体、2 0 ~ 9 0 重量 %、( b ) 下記一般式 ( I ) で表される化合物 3 ~ 5 0 重量 %、及び ( c ) 光重合開始剤、0 . 0 1 ~ 2 0 重量 % を含有する光重合性樹脂組成物。

【化 1】



[R1 : H または CH<sub>3</sub>、



式中、Y は炭素数が 1 ~ 6 の鎖状炭化水素、シクロヘキサンまたは芳香環を表す。  
R<sub>2</sub> は -OH または -COOH。Z は -C<sub>2</sub>H<sub>4</sub>- であり、n は 1 ~ 6 の整数である。]

【請求項 2】

支持体上に請求項 1 に記載の光重合性樹脂組成物からなる層を設けた光重合性樹脂積層体。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 1 】

ここで、上記 ( a ) 成分の熱可塑性重合体は、 i ) 3 ~ 1 5 個の炭素原子を有する 、  
- 不飽和カルボキシル基含有モノマーの一種以上の化合物と、i i ) x ) アルキル基が  
1 ~ 6 個の炭素原子を有するアルキル ( メタ ) アクリレート、y ) ヒドロキシルアルキル  
基が 2 ~ 6 個の炭素原子を有するヒドロキシル ( メタ ) アクリレート、及び z ) 下記一般  
式 ( I I ) で表されるスチレン型化合物またはその環置換誘導体からなる群から選ばれる  
一種以上の化合物とを共重合したものであることが好ましい。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 3 】

また、以下の ( 2 ) は、本願発明の好ましい実施態様である。

( 2 ) 支持体上に上記 ( 1 ) 記載の光重合性樹脂組成物からなる層を設けた光重合性樹脂  
積層体。

なお、ここで各成分の重量 % は、各成分が組成中に含まれる比率を示すものである。以  
下、本発明の光重合性樹脂組成物を構成する各成分について詳細に説明する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 6 】

特に、( a ) カルボキシル基含有熱可塑性重合体の成分として、i ) 3 ~ 1 5 個の炭素  
原子を有する 、 - 不飽和カルボキシル基含有モノマーの一種以上の化合物と、i i )  
x ) アルキル基が 1 ~ 6 個の炭素原子を有するアルキル ( メタ ) アクリレート、 y ) ヒド  
ロキシルアルキル基が 2 ~ 6 個の炭素原子を有するヒドロキシル ( メタ ) アクリレート、  
及び z ) 前記一般式 ( I I ) で表されるスチレン型化合物またはその環置換誘導体からな  
る群から選ばれる一種以上の化合物とを共重合してなる、バインダー用熱可塑性重合体、  
2 0 ~ 9 0 重量 % を用いることにより、めっき耐性、エッチング耐性、密着性、解像性等  
、更に良好な特性を得ることが出来る。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 7 】

このようなバインダー用熱可塑性重合体を得るためには、下記 2 つの重合性物質群の適  
量を共重合させることにより達成される。第一の重合性物質は、3 ~ 1 5 個の炭素原子を  
有する 、 - 不飽和カルボキシル基含有モノマーの一種以上の化合物からなる。不飽和  
カルボキシル基含有モノマーとしては、好ましくはアクリル酸およびメタクリル酸があり  
、その他ケイ皮酸、クロトン酸、ソルビン酸、イタコン酸、プロピオール酸、マレイン酸  
およびフマル酸が挙げられる。また、これらの半エステル類または無水物も使用可能であ  
る。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 9 】

炭素数 1 ～ 6 個の炭素原子を有するアルキル基としては、アルキル（メタ）アクリレート、またはヒドロキシルアルキル基が 2 ～ 6 個の炭素原子を有するヒドロキシル（メタ）アクリレートとしては、メチル（メタ）アクリレート、エチル（メタ）アクリレート、n - プロピル（メタ）アクリレート、i s o - プロピル（メタ）アクリレート、n - ブチル（メタ）アクリレート、s e c - ブチル（メタ）アクリレート、t e r t - ブチル（メタ）アクリレート、2 - ヒドロキシルエチル（メタ）アクリレート、2 - ヒドロキシルプロピル（メタ）アクリレート等が挙げられる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 1 】

一般式（I I）で表されるスチレン型化合物としては、スチレン、 $\alpha$  - メチルスチレン、p - メチルスチレン、p - クロロスチレン等が挙げられるが、特にスチレン、p - メチルスチレンが好適である。